

1 人生について（鳥の目から）

人生は、何をして生きるのか（職業選択）ではなく、
どう生きるのか（自分）を探す旅

目的と手段をはきはき
はき違えないように
したい

人生のほとんどが、正解のない問題を選択することの連続です。その選択が正しいかどうかは、誰にもわかりません。人生に正解はありません。大事なのは、「こうしたい」という**自分の意見**をもって選択できるかどうかです。人生に正解があると思うと、生きづらさを感じ、他人に依存し、個の才能を潰し、幸せを感じられなくなります。生徒が幸せな人生を送るためには、学校や家庭、社会生活の中で、**自分にとって大切なものは何かを自分で考え、自分の意見に従って行動していく**という経験を積み上げていくことが大切です。

2 学校・家庭・地域社会の願いについて（虫の目、魚の目から）

- ・ふるさとに愛着を持ち、やがては地域に貢献できる人
- ・予測することが困難な社会を生きるのに必要な資質を持つ人

学校や家庭・地域社会は、生徒たちがどんな人に成長してほしいと願っているのでしょう。形原町は人口の流出、主力産業や伝統文化の衰退などの問題で、元気をなくしています。また、生徒たちが生きる未来は、IT化・情報化による急速な科学技術の進歩やグローバル化・多様化の加速などで、変化の激しい社会になることが予想されます。そこで、上記の2つが教職員・保護者・地域の方の共通した願いであると考えます。

3 校長の教育理念

人は人を浴びて人になる

植物がたくさん太陽の光を浴びて、芽を出し、葉をつけ、花を咲かせ、実を結ぶように、人は多くの人を浴びて人として成長できる

私の教育の根幹をなす言葉です。

学校生活の中で、生徒たちが様々な人とかわる機会をたくさんつくっていきます。

4 学校教育目標

ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた生徒を育てる
～形原大好き！人を浴びて伸びる形中生～

「知」＝知識の習得及び物事の本質を理解し・考え・判断し・行動できる。【確かな学力】

「徳」＝道徳的な心情と行為。特に人の数だけ存在する意見を認めることと、**自分の意見**をもち、**失敗を恐れずに挑戦しようとする**ことを重視する。【豊かな心】

「体」＝運動やスポーツに親しみ、健康で安全に生きることが出来る。【健やかな体】

5 めざす生徒像と3つの資質

様々な人とかかわりあいを通して、次の生徒の育成をめざします。

「どう生きるのかを問い続ける生徒」(当事者意識をもつ)

- ①自分で考え、判断し行動する (情報化・IT化する社会を生きる)
- ②多様な考え方や特性を認め、他者を尊重する
(グローバル化・多様化する社会を生きる)
- ③豊かな発想で、新たな価値を生み出す
(予測困難な未来への不安を希望に変える)

過剰なサービスを見直す

自分の意見をもつ

6 めざす生徒像へ導くための言葉がけ

学校生活で次の3つの言葉をかけ、自分で考える機会をつくります。

「どうしたの？」

- ・生徒の置かれている状態を確認する(問題を意識させる)

「どうしたいの？」

- ・生徒の意思を確認する(解決方法を考えるきっかけをつくる)

「できることはある？」

- 問題解決の手助けをする(選択肢を与え、自分で決めさせる)

【ポイント】

- ①心理的な安全状態をつくる
- ②選択肢を与え、自分で決めさせる
- ③失敗しても良いと思える環境をつくる
- ④トラブルを経験させる

7 経営方針

「人は人を浴びて人になる」という理念にもたれ、「自分の意見をもつ」ことを学校づくりのコアとします。

- ①生徒たちが、様々な人とかかわり、自ら考え、判断し、行動する経験を積むことで、自分にとって大切なものは何かを考え、それに従って生活できるようにする

【人を浴びて考える生徒】

- ②教職員が、ワークライフバランスを大切にし、気力を充実させ、自ら考え、持ち味を生かしながら協働して教育力の向上をめざす

【チームで働く考える教職員】

- ③学校・家庭・地域が、共通の目標やビジョンを掲げ、ともに教育活動をすすめることで、学校を元気にし、地域を元気にする

【地域とともに考える学校】

8 本年度の重点努力目標

- ①ふるさと形原を愛する心を育むために、次のことを行います。

ア 学校運営協議会(コミュニティースクール)を設置し、学校と家庭・地域で育てたい子ども像やめざす学校像を共有し、保護者や地域住民の参画を得て、共にその実現をめざす。

イ 学校集会・保護者会・地域の会合やメディアリリース・各種通信・ホームページ・回覧板等で学校の教育ビジョンや学校生活の様子を積極的に発信することで、学校・家庭・地域が、相互理解や信頼関係を深め、協働して子どもたちを育てるという意識づくりをする。

ウ 学校運営に学校支援ボランティアを参画させ、幅広い知識や専門性、豊富な経験を授業や行事で活用する。そのことで、質の高い教育活動を実現するとともに、生徒たちがふるさとの良さを実感できるようにする。

地域から学校へ ～学校支援ボランティアによる活動～(昨年度の実践)

【形原の自然】

- ・オーシャンキッズ →西浦パームビーチ海体験(3年総合)・サップ体験(1.2年体育)
- ・形原漁協 →春日浦海岸潮干狩り体験(1年総合)
- ・春日桜会 →桜の早咲き育成体験(1.2年JRC委員会)

【形原の歴史・文化】

- ・拾石チャラボコ保存会 →ちゃらぼこ体験(1年音楽)
- ・煙火昭桜会 →3年生を送る会での手筒花火披露(全校)

【形原の産業】

- ・蒲郡くらふとフェア実行委員会・稲葉製鋼 →形原のロープを使った卒業・入学式コサージュづくり(全校)
- ・稲葉製鋼 →形原のロープが活躍できるアジアの州はどこだろう(1年社会)
- ・J-TEC →働く人に話を聞く会(2年総合)

【形原の食】

- ・栄軒 →油菓子づくり(1年家庭科)
- ・ヤマスイ →形原の海の魚を美味しく食べよう教室(2.3年家庭科)

【形原のまちづくり】

- ・市長 →市長さんと蒲郡の未来について考えよう(3年社会)
- ・公共施設マネジメント課 →公共施設ワークショップへの生徒の参加(3年代表)

【その他】

- ・おやじの会 →草刈りボランティア
- ・地域の方から話を聞く会～三河湾・赤い電車・お祭り・あじさいの里・ロープ工業～(1年)

エ 地域の活動に生徒たちを積極的に参加させることで、地域に貢献することの楽しさや喜びを味わわせる。また、地域コミュニティの活性化の一助とする。

学校から地域へ ～生徒が地域へ働きかける活動～(昨年度の実践)

- ・形原駅での朝のいさつ運動(生徒会)
- ・ふれあい地域清掃活動(全校)
- ・形原神社祭礼への参加(剣道・弓道)
- ・桜会ボランティア(全校)
- ・公民館行事への参加(1年総合、写生会作品)

②知(確かな学力)を育むために、次のことを行います。

地域教材(ひと・もの・こと)、ICT機器、かかわり合いや体験的な活動等を活用して、**自らすすんで学ぶ姿勢**を育む

ア 生徒が、自ら課題をみつけ、解決方法を考え、見通しをもって粘り強く取り組み、学習活動を振り返り、次につなげる。 【主体的で】

- ・「3つの言葉がけ」を意識した授業づくり
- ・「やらされるからやる家庭学習へ」を意識した宿題の見直し

イ 生徒が、生徒・教職員・地域の方など様々な人との対話を通して、自分の考えを広げ深める。 【対話的で】

ウ 各教科の教育内容を横断的な視点で関連付けることで、生徒が知識や技能の習得にとどまらず、よりよい生活や社会をつくるために、それをどう生かすか考え、動き出す。 【深い学び】

総合的な学習を柱に、地域教材を生かした授業づくり

③徳（豊かな心）を育むために、次のことを行います。

「自分の意見を持ち、失敗を恐れずに挑戦しようとする」、「他の意見を認め、尊重し、思いやる」、「自然や美しいものに感動する」、「生命や人権を尊重する」等の心情を育み、行動する生徒を育てるために。

ア 学校生活の全てにおいて、自己存在感（居場所づくり）、共感的な人間関係（絆づくり）、自己決定の場（自分づくり）が機能するようにする。【生徒指導】

合理的な理由のない校則（ブラック校則）をなくすことで、生徒が生活の中で自分で考えなければならない場面を意図的につくる

イ 「考え、議論する道徳」への転換を図り、広い視野から物事を多面的・多角的にとらえ、自分のこととして考えられる学習展開を工夫し、道徳的実践力を高める。

テーマ発問、問題解決的・体験的（役割演技等）な学習等

【道徳教育】

ウ 家庭や地域・関係機関と連携し、文化芸術・ボランティア・自然・集団宿泊・職場などの体験的な学習を充実する。【体験的な学習】

学校支援ボランティアによる体験活動、職場体験、自然教室、修学旅行等

エ 学校生活をよりよくする自治活動、縦割り活動や地域社会に働きかける活動を充実する。【生徒会・特別活動】

生活のルールの見直し、意見箱、縦割り応援演技、常設資源回収強化、生徒が地域へ働きかける活動 等

オ 校内外の美化に気を配り、うるおいと安心感のある環境を整える。【環境づくり】

SKaT 広場の憩いの場としての活用 ※プチ文化祭（文化部や個人・グループでの特技発表）

④体（健やかな体）を育むために、次のことを行います。

ア 体育の授業、体育的行事、部活動、**休み時間のスポーツや体を使った遊び**などに積極的に取り組み、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。

イ 「自分の命は自分で守る」を合言葉にして安全・防災教育を推進し、生活の中で起こりうるあらゆる危険に対して、適切に判断し、回避できる能力を養う。

「絶対死ぬなよ！」 Keep on living

ウ 食育や保健指導（感染症対策・がん教育等）の充実を図り、生徒の健康管理への意識と実践力を高める。

⑤人間力のある魅力的な教職員になるために、次のことを行います。

ア 人生を豊かにするために、**自ら考え、判断し、行動する**。

イ 生徒の成長を願い、愛と情熱をもって教育を推進する。

ウ 多忙感を解消し、心身ともに健康で、明るく楽しく教育活動をおこなう。

エ 教育力の向上をめざし、同僚と協働して様々な課題に取り組む。

オ 研修に努め、指導技術を磨き、豊かな教養と高い専門性を身につける。

カ 広く社会とかわかり、時代のニーズを把握する感性や人間性、社会性を育む。

キ 生徒の安全や健康を守るための危機管理能力を身につける。

3 教職員の働き方改革に向けた業務改善学校マネジメント

①目標『多忙化の解消によって、めざす生徒像を実現し、教職員の気力を充実する』

②方策

ア 生徒が自分で考え判断し行動することを妨げる教育活動を見直す

(過剰なサービス) ブラック校則、入試対応、宿題のあり方、補習など

イ 目標を共有化し、教職員の意識改革をすすめる。

- ・教職員が多忙化を解消し、ワークバランスのとれた生活の中で、心身共に元気になることが、よりよい教育を生む源であることを訴える
- ・スローガン「スクラップ&ビルド～戦略とは何をやらないかを定めることである～」を掲げる。※壊す勇気を持つ、本当に必要なものは、壊しても必ず復活する。

ウ 目的を失っているもの、非効率・無駄なものを洗い出し改善する。

- ・学校運営に地域住民（学校支援ボランティア）の力を借りる。
- ・何事にも協働して、問題解決にあたる環境をつくる（チーム形中）
- ・部活や行事・会議の内容精選（時間短縮や実施回数の削減）や廃止をすすめる。
- ・文書事務の見直しや簡略化（不要な回覧、決裁を削減）し、負担軽減を図る。
- ・ICT（タブレット等）の環境を整備し、授業準備や授業運営の効率化を図る

【昨年度までの改革】

- ・ブラック校則の廃止 ・男女共通新ジャージの導入 ・制服、体操服の名札の廃止
- ・生徒会選挙の Web 投票 ・職員会議の回数削減 ・運営委員会の定期開催の廃止
- ・4部活削減と複数顧問制導入 ・校誌「かすが」の縮小 ・文書回覧のデジタル化
- ・学校評価アンケートの内容精選と Web 化 ・学校新聞の廃止 ・資源回収の回数削減
- ・学校行事の廃止（文化の日、駆け足訓練、マラソン大会、全校での合唱コンクール）等

【本年度の改革】

- ・部活動の負担軽減（平日週1回休止、最長90分間の練習、土日を月2回3時間程度）
- ・宿題の負担軽減 ・時間外の電話対応停止（19時～） ・勤務時間を考慮した校時表
- ・委員会の精選（10から8へ） ・生徒手帳のカード化 ・出欠連絡の Web 化
- ・濃紺の体操服の導入 ・PTA 役員の削減 ・PTA 活動内容の精選 等

エ 教職員がワークバランスのとれた生活ができるようにする。

- ・ノー残業デーの徹底と年次休暇取得の推進を図る。

オ 保護者・地域住民への理解・啓蒙をすすめる。

- ・教職員の働き方改革の取組についてホームページや通信等で情報を発信する。

【参考書籍】「自律する子の育て方」 工藤勇一・青砥瑞人（SB新書）
「自分の意見で生きていこう」 ちきりん （ダイヤモンド社）
「新100のきほん」 松浦弥太郎 （マガジンハウス新書）